



★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号**500253** 1口500円にて毎週受け付けています。
★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:**500252** 1口1000円～ にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:**500251** 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
★JOSO脱プラ基金は注文番号:**500254** 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

2022-23年度活動テーマ「つくと食べるでつながろう ～私たちの地産地消～」



関東子ども健康調査支援基金 第10年次活動報告

共同代表 兼 事務局 木本さゆり



東京電力福島第一原発事故から13年、当基金が常総生協の中に立ち上がって10年が経過しました。地域と連携した活動として、生協の供給エリアを超える関東（栃木・茨城・千葉・埼玉・神奈川・東京）の「（放射能による）汚染状況重点調査地域」を中心に、子ども達の甲状腺エコー検査を行ってきました。各地域の運営団体、医師・技師の方々にボランティア協力いただき、エコー検査機1台（350万円。寄付で購入）を生協の車に積んで、年1回各会場を回る巡回検診です。去る12月17日に生協組合員室にて第10年次活動報告会を行いましたので報告します。

【1】10年間の検診結果、概要（事故時18歳以下）

年次	期 間	会 場	検診数	基 金 判 定			福 島 判 定			
				所見なし	所見あり	要専門医	(A1)	(A2)	(B)	(C)
10年次	2022年10月～2023年9月	16会場	319	60 (18.8%)	256 (80.3%)	3 (0.9%)	60 (18.8%)	254 (79.6%)	5 (1.6%)	0 (0.0%)
9年次	2021年10月～2022年9月	16会場	385	71 (18.4%)	311 (80.8%)	3 (0.8%)	70 (18.2%)	311 (80.8%)	4 (1.0%)	0 (0.0%)
8年次	2020年10月～2021年9月	3会場	107	19 (17.8%)	85 (79.4%)	3 (2.8%)	18 (16.8%)	89 (83.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
7年次	2019年10月～2020年9月	6会場	337	47 (13.9%)	284 (84.3%)	6 (1.8%)	47 (13.9%)	285 (84.6%)	5 (1.5%)	0 (0.0%)
6年次	2018年10月～2019年9月	23会場	1,296	204 (15.7%)	1,083 (83.6%)	9 (0.7%)	203 (15.7%)	1,085 (83.7%)	8 (0.6%)	0 (0.0%)
5年次	2017年10月～2018年9月	26会場	1,459	215 (14.7%)	1,231 (84.4%)	13 (0.9%)	210 (14.4%)	1,237 (84.8%)	12 (0.8%)	0 (0.0%)
4年次	2016年10月～2017年9月	26会場	1,552	292 (18.8%)	1,249 (80.5%)	11 (0.7%)	289 (18.6%)	1,251 (80.6%)	11 (0.7%)	1 (0.1%)
3年次	2015年10月～2016年9月	29会場	1,957	458 (23.4%)	1,494 (76.3%)	5 (0.3%)	471 (24.1%)	1,477 (75.5%)	9 (0.5%)	0 (0.0%)
2年次	2014年10月～2015年9月	27会場	1,866	461 (24.7%)	1,398 (74.9%)	7 (0.4%)	464 (24.9%)	1,399 (75.0%)	3 (0.2%)	0 (0.0%)
1年次	2013年10月～2014年9月	22会場	1,813	623 (34.4%)	1,185 (65.4%)	5 (0.3%)	623 (34.4%)	1,184 (65.3%)	6 (0.3%)	0 (0.0%)
【累計】	2013年10月～2023年9月	194会場	11,091	2,450 (22.1%)	8,576 (77.3%)	65 (0.6%)	2,455 (22.1%)	8,572 (77.3%)	63 (0.6%)	1 (0.0%)

2024年3月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
○「常総っ子応援団」ゴンタで遊ぼうin流星台プレイパーク ※毎週木曜日に外遊び活動をしています！ ・3/16(土)歴史講座、鈴木牧場見学会 ・3/19(火)出張みそ講習会 ・3/27(水)定例理事会	・3/9(土)じっくり交流会(生産者によるプレゼン)、ままとーんみそ講習会 ・3/20(水)さようなら原発全国集会 ・3/21(木)茨城県生協連 理事会 ・3/23(土)、24(日)関西よつ葉交流会

【基金判定】		
判定	所見	案内
所見なし	現時点では特に何も見あたりません	定期検診(2年後程度)をおすすめします
所見あり	「のう胞」が見られました	定期検診(毎年)をおすすめします
	「結節」が見られました	定期検診(毎年)で経過観察が必要です
	「結節・のう胞」が見られました	
要専門医	専門医・専門機関での精密検査が必要です	

参考(福島判定)	
判定	内容
A1判定	のう胞・結節をみとめないもの
A2判定	5.0mm以下の結節、20.0mm以下ののう胞を認めたもの
B判定	5.1mm以上の結節、20.1mm以上ののう胞を認めたもの
C判定	直ちに二次検査(穿刺細胞診)を要する

●基金判定とは

- ・基金判定では、5.1mm以上の結節であっても良性と判断される場合は「所見あり 要経過観察」としています。
- ・逆に5.0mm以下でも悪性を疑う場合「要専門医/ 精密検査」とすることがあります。
- ・また、2回目以上の受診の場合は、過去の所見・画像を確認しながら、その大きさや形状の変化をみていきます。

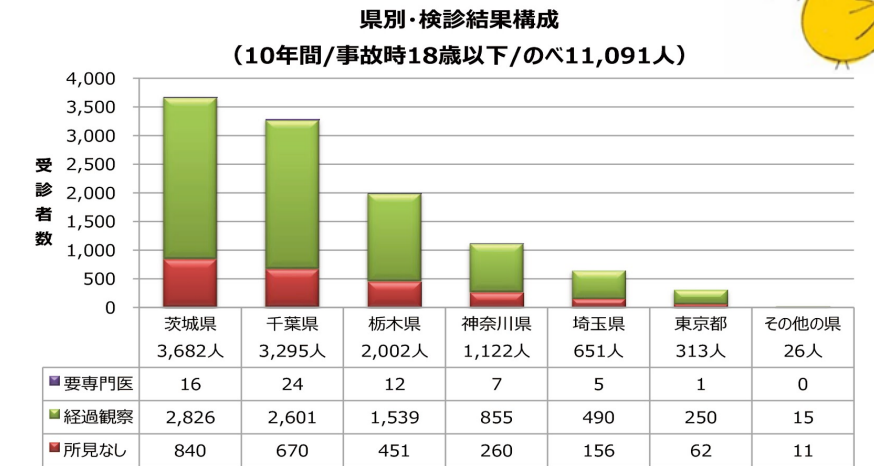
10年次(2022.10～2023.9)、事故時18歳以下の検診者数は319人、のべ人数にすると11,091人となりました。対象年齢外も含めると10年次352

人、のべ11,855人です。これまでに、基金の検診を受けた事故時18歳以下の方で甲状腺癌が確定した方は3名です(10年次、新たに確定した方はいません)。

【2】10年次の検診会場一覧

No	年月日	都・県	会場	検診者数
217	2023/09/03(日)	栃木県	宇都宮会場	26
216	2023/08/26(土)	茨城県	ひたちなか会場	8
215	2023/08/06(日)	茨城県	つくば土浦会場	31
214	2023/07/09(日)	栃木県	益子会場	21
213	2023/07/02(日)	茨城県	牛久会場	23
212	2023/06/18(日)	埼玉県	三郷会場	34
211	2023/06/04(日)	茨城県	日立会場	14
210	2023/04/23(日)	千葉県	我孫子会場	30
209	2023/03/19(日)	茨城県	守谷会場	20
208	2022/12/11(日)	神奈川県	新横浜会場	32
207	2022/12/10(土)	神奈川県	新横浜会場	24
206	2022/11/12(土)	千葉県	柏会場	20
205	2022/10/30(日)	栃木県	宇都宮会場	20
204	2022/10/29(土)	栃木県	矢板会場	27
203	2022/10/23(日)	栃木県	那須塩原会場	10
202	2022/10/22(土)	栃木県	那須塩原会場	12
【10年次計】		2022-23年	16会場	352人

【3】県別・検診結果



【受診者の成長と受診人数】 受診者数は原発事故から5年目(2015年)をピークに減ってきました。新型コロナ流行も影響しましたが、最も受診が多かった小学生までの年齢層が、事故から12年経って中学生以上になった事が大きな要因と考えられます。一方で、成人して親元を離れたり、出産を終えて、自分自身で検診申込みをされるケースも出てきました。受診者数は減っていますが、現在も「この検診を初めて知りました」という声があることから、いかに当事者に情報を届けるか、受診しやすくするにはどうしたらよいか、考えていきたいと思っています。

【福島県の状況】 福島県では2011年から「県民健康調査」の一環として、甲状腺エコー検査(事故当時福島県内に居住していた18歳以下が対象)が行われています。約900億円の費用は国と東京電力が負担。対象者は38万人で、2年毎に検診があり現在6巡目に入っています。20歳を超えると5年毎の節目検診となります。

直近、2024年2月2日の福島県の発表は表のとおりです。「細胞診」で「がん疑い」と診断された人数と、「手術」で「がん確定」となった人数は分けて報告されています。

単純比較はできませんが、事故前は10万人に1人と言われていた甲状腺がんの罹患率を考えるととても多い人数です。「福島県県民健康調査 甲状腺評価部会」は、「多発」は認めながらも「甲状腺がん」と放射線被ばくの関係」を否定する報告書を発表しています。

	対象者	がん又はがん疑い	手術済み	がん確定
福島県民健康調査	38万人	328人	275人 (1人は良性)	274人
がん登録		43人		
合計		370人※ (良性1人除く)		

【ご支援のお礼と今後の私たちの検診活動】 基金の活動は常総生協と、多くの方のご寄付に支えられて地域の子どもたちを見守る活動が10年も継続できたことに心より感謝申し上げます。2021年2月より注文用紙から6桁番号(500252=千円)で寄付いただけるようになり、これまでにのべ140人の組合員さんから計38万1千円を頂戴しました。誠にありがとうございました。今後については、事故時に生まれた子が15歳となる(「小児」と呼ばれる最後の年齢)2026年を一区切りとして検診頻度を減らしてゆく方針です。検診運営を担う18団体と相談し、会場の統合や、隔年での開催などを考えています(活動終了する団体もあります)。2026年以降も検診を継続していくには財政的に充分ではないため引き続きご支援をいただければ幸いです。

三上智恵監督の新しい映画「戦雲—いくさふむ」完成！

沖縄の軍備増強の問題などをテーマにした、三上智恵さんの新しい映画「戦雲—いくさふむ」が完成しました。その予告編とも言えるスピンオフ「沖縄、再び戦場へ(仮題)」は昨年秋に各地で自主上映され、ご覧になった方も多く居られると思います



三上監督からの映画応援のカンパお願いに対し、常総生協の「平和の集い 歴史講座」有志で募って送りました。本編エンドロールに、『常総生協平和の集い』と掲載されます！応援カンパありがとうございました。

3/16からポレポレ東中野と横浜シネマジャック&ベティで公開です。柏のキネ旬シアターは3/23から始まります。是非、劇場まで足を運んでご覧ください!! (平和の集い 組合員 関谷和子) 詳しくは[こちら](#)

本当の「国防」とは何か？ 圧殺されるのは沖縄の声だけではない

沖縄本島、与那国島、宮古島、石垣島、奄美大島——この美しい島々で、日米両政府の主導のもと急速な軍事要塞化が進行している。自衛隊ミサイル部隊の配備、弾薬庫の大増設、基地の地下化、そして全島民避難計画……。2022年には、「台湾有事」を想定した大規模な日米共同軍事演習「キーン・ソード23」と安保三文書の内容から、九州から南西諸島を主戦場とし、現地の人々の犠牲を事実上覚悟した防衛計画が露わになった。しかし、その真の恐ろしさを読み解き、報じるメディアはほとんどない。全国の空港・港湾の軍事拠点化・兵站基地化が進められていることをどれほどの日本人が知っているか。本当の「国防」とは何か。圧殺されるのは沖縄の声だけではない。

『標的の村』沖縄スパイ戦史

6年ぶり、渾身の最新作

本作は2015年から8年かけ沖縄・南西諸島をめぐり取材を続けてきた映画監督でジャーナリストの三上智恵による渾身の最新レポートである。タイトルは、山里節子さんが「また戦雲が湧き出してくるよ、恐ろしくて眠れない」と歌った石垣島の抒情詩とうばらゝまの歌詞に由る。映画が映し出すのは、民意を置き去りにしたままなし崩し的に進む戦力配備の実態だけではない。過酷な歴史と豊かな自然に育まれた人々の暮らしや祭り——それらこそ、まやかしの「抑止力」の名のもとで今まさに蹂躪されようとしているかけがえのない何かであり、私たちの希望と祈りの源にほかならない。

沖縄本島から約509km

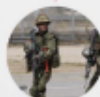
与那国島

町に何も知らされないままミサイル基地建設が決まり、戦車やPAC3積載車が公道を走る島に。



石垣島

若者主導の住民投票運動は市政に潰され、ミサイル基地が島の真ん中にできた。



宮古島

集落の程近くにミサイル基地、射撃訓練場を備えた弾薬庫も完成した。

沖縄本島

島々に配備されたミサイル基地統括本部がまもなく完成。民間の港が次々と軍事訓練に使われている。

今からでも遅くはない。
共に目撃者になり、
今という歴史を背負う
当事者になってほしい。

映画監督/ジャーナリスト
三上智恵

mikami.films

映画『戦雲』サポーター募集

本作のチラシ配布やポスター設置などをご協力いただける方を募っています。詳しくは映画公式サイトをご覧ください。

お問合せ
okinawakirokueiga@gmail.com
TEL 03-5919-1542 (平日11:00~18:00)



理事会よもやま通信

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

職員の方から「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します。在宅時に実践することで、職員の皆さんの体力温存の助けにもなるかなあ。」



班配達のススメ

班配達のまとめ

【班配達を訪ねて】

組合員さんから「班配達知らなかった：あるならばやってみよう」「近所の組合員さんとの交流したい」のお声をいただいてから、始まった【班配達のススメ】ですが、実際に見て回ってから、少し時間が経ってしまいました。基礎編（よもやま通信32号）で述べた通り、「個配」に切り替えてきた生協の歴史の中で、班配達をオススメすることが生協の方針としてどうなの？業務にどう影響する？また職員さんたちの負担は？など、業務会議（生協部署のリーダーが集まる会議）との連携をはかりながら、進めてきました。

また、実際に班配達の現状を見てみると…

「班」というと、四〜五人、またはそれ以上のイメージがあったので、93班のうち、63班が二人班で一番多く意外でした。

伺わせていただいた二人班の方からも「二人だけでもいいの？」との質問がありました。もちろん大丈夫だそうです。ベテラン供給職員の方に伺ったところ、「一軒でも、トラックを止める回数が減るならば、それはそれは助かる」との返答。他二名の職員からも同様の回答が返ってきました。さらに、コース効率だけで無く、トラックまで取りに来てもらえると、

職員の荷台からの乗り降りが減り、身体的にも負担が少なくてできると、見ていて感じました。（これは個配でも、在宅時に実践することで、

職員の皆さんの体力温存の助けにもなるかなあ。」

【班配達とステーション（供給配達拠点）を検討】

常総生協が産声を上げたころは、班配達のみでした。お近くに住いの組合員さんを班にしたり、あとから加入した方に、お近くの班に入っていたたりと、生協側で班をコーディネートしていました。しかし、時代とともに各家庭の生活スタイルが多様化し、別のニーズに合わせて一軒一軒に供給する個配を導入してからは、個人情報保護もあり、生協側からは班配達をお勧めするのが難しくなっていました。

そこで今回は、気心知れた仲間（お友達同士・職場の同僚）との【班配達】と、自宅や職場などを供給の拠点【ステーション】にする方法を検討しています。

【班配達】

- ・班全員の分の商品が一括して班長のところにお届け
- ・班員で商品を仕分け、注文した商品を各自宅に持ち帰る

【ステーション】

- ・個配同様にセットされた商品を受け取り預かる
- ・各自で商品を取りに来てもらい、各自宅に持ち帰ってもらう（商品のみ・セットされた状態で、など、利用者の都合に合わせて）
- ・ステーション利用者の梱包資材（折り畳みコンテナ・発砲スチロールの箱・蓄冷材など）を預かり、まとめて次週に返却する

※現在【ステーション】は戸頭店と生協本部のみです。組合員のご自宅などを利用する試みは初めてです。

それぞれのメリット・デメリットなど、詳しいことは春の組合員討議資料に掲載、またアンケートをとっています。「組合員としてできること」として、ご一考くださるとうれしいです。（増本）



常総生協が好きだー

「理事会よもやま通信」へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。